

令和元年度【第1回】島根県県民いきいき活動促進委員会 【議事概要】

日時:令和元年7月19日(金)

13:30~15:00

場所:島根県松江合同庁舎 601会議室

出席状況

○委員(出席17名、欠席1名)

金野委員長、大森副委員長、小倉副委員長、石橋委員、香取委員、岸委員、猿渡委員、妹尾委員、田原委員、田村委員、中岡委員、中野委員、原田委員、原野委員、松崎委員、森山委員、若菜委員

○アドバイザー

毎熊アドバイザー

○事務局(8名)

松本部長、中川参事、日下課長、山名室長、山本企画幹、小村主任、上野主任、宮前囑託職員

1. 開会

2. あいさつ 松本環境生活部長

3. 委員改選等について

(1)委員紹介 各委員から自己紹介

(2)委員長・副委員長の選出

委員から金野委員を委員長に推す意見が出され、全員了承により委員長に選出された。

金野委員長が副委員長に大森委員、小倉委員を指名し、兩名の副委員長就任が決定した。

(3)部会・審査委員会について

事務局から、委員会の下に置く「基本問題検討部会」の部会員、「いきいき活動奨励賞審査委員会」及び基金を財源とする事業審査会の審査委員について資料に基づき報告。

4. 報告事項

事務局から以下の内容について、資料に沿って報告。

(1)NPO活動推進室の事業概要について

①令和元年度NPO活動推進室事業概要

②島根県県民いきいき活動奨励賞

(2)島根県県民いきいき活動促進基本方針の改訂について

【質疑応答、主なご意見】

(1)①②について

委員 市と県の事業が重複している。それぞれがやるより一緒に協働で実施することを検討したい。

委員 社会貢献に向けた事業を県が取り組んでいるということを、委員になって初めて知った。

委員 若い世代に寄附の文化あまりない。逆にクラウドファンディングへの関心は聞く。どうすれば寄附につながられるか考えたい。

委員 県民への関心を高めるためには、今後の事業で新しい取組も必要。

委員 市町村も NPO の活動をこまめに把握し、頑張っている団体を(県民いきいき活動奨励賞に推薦する等)支援してほしい。

(2)について

委員 県民いきいき活動への参加率が3割とあるが、この3割の参加率は果たして少ないのか？

委員 3割という数字は低くないと思う。

事務局 ほかの目標でも3割を目指している。まずは3割を目指したい。

委員 山間部でのいきいき活動参加率はもっと高い。

委員 いきいき活動に参加したい人に募集等の情報が届かないのが課題。

委員 いきいき活動に機会がなくて参加できない、やりたくても参加できないという人に情報を届けるのが大事。

事務局 いきいき活動に参加したいが機会がないという回答が4割超えている。この方々へどう伝えるか大事。

委員 大学からもボランティア募集はかかるが学生に伝わってない。知らない学生も多い。

委員 自治会などでは、行政との取組を協働と理解していない。情報収集をこまめに行い広報すべき。

委員 市民の方はなぜ NPO 活動を活発に行わなければならないのか初歩的なことがわかっていない。NPO 活動は何の役に立つのか。NPO 活動を行うとどうなるのか。もう一度原点に立ち繰り返し、丁寧に説明することが大切。

協働の意味、社会貢献基金の意義、ふるさと納税やクラウドファンディングとの違いなども。寄附とふるさと納税、どちらが得かの比較材料で選ばれがち。

委員 NPO 法人の解散の理由に高齢化がある。世代交代のための取組も必要。

委員 いきいき活動への関心の指標に NPO 法人数があるが、設立数だけが重要ではない。

委員 NPO 法ができた時の熱意が関係者や市民に感じられない。

委員 熱い人が少なくなっている。若い人で熱い思いを持つ人を育てる仕組みが必要。

委員 各委員も現状や課題を自分事として考えるべき。できることをやるべき。

委員長

「本日の委員意見を参考に「現状と課題」「施策の方向性」は固めていく。今後は「行動計画」について基本問題検討部会で作業を進め次回委員会に報告したい」と総括

5. その他

事務局から今後の研修の説明などについて

6. 閉会